

Support Power

PROFILE

塩竈市 産業環境部 水産振興課 浅海農政係
 おくの みつや
奥野 満也 さん
 兵庫県より塩竈市に派遣

the 応援職員

NOW IS.
 塩 竈
 Shiogama



「島育ち 寒風沢野菜」の販促ツール。



宮城大学の作物実証実験の栽培の様子。



島の未来をどう切り開いていくか。

「専門は農業土木です。寒風沢島の津波で浸水した21ヘクタールの農地の整備後における、水田での畑作栽培の営農計画を担当しています」。そう話す奥野さんは、生まれも育ちも兵庫県の淡路島。兵庫県南あわじ市を退職後、兵庫県の任期付職員に採用され、平成26年4月から塩竈市水産振興課の浅海農政係に派遣職員として配属されました。

寒風沢島では、津波で農地が海水に浸かりました。除塩や土の入れ替えなどの整備が進み、完了は本年度の予定。平成26年には一部の水田での土地利用が可能になり、水田を畑に転換し、畑作物による実証実験を始めました。「何を育てるのか?」思った時に、淡路島名産のタマネギはどうかと。同じ「島」なので、栽培方法など参考にできるのでは、と考えました。淡路島から特別に種子を送ってもらいました。

土木専門の奥野さんは、栽培の経験がありません。相談に乗ってくれたのは、淡路島の生産者の方でした。「初めて作付けた冬に地中の水分が凍って土が盛り上がり、タマネギの芽がひっくり返ってしまいました。もうダメかと思う時もありましたが、無事、タマネギに実が入った時には本当にうれしかったですね」。翌年からはジャガイモなど他の作物の栽培を始め、さらに今年の4月から宮城大学食産業学部の富樫千之教授の協力を受け、作物の実証実験を開始。「島での作物栽培は、潮風の影響を受けミネラルが豊富。甘みやコクのある作物が育ちます。今後は『島育ち寒風沢野菜』としてブランド化していけたらと、収穫した作物での六次化に向けての試作など、さまざまに試みも行っています」。

「農政担当として、営農の基礎をしっかりと作っていきたくと考えています。例えるなら、農業が職となす種をまき、芽を出すまでのお手伝いをするということです。その後いかに育っていくかが今後の寒風沢島の課題です。市独自の農地バンクを活用し新規営農者を募集するなど、寒風沢島での自立可能な農業につなげたいと思っています。」

info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします



塩竈市魚市場がついに完成

震災で被災した塩竈市魚市場の建て替え工事が平成29年10月に完了。荷さばき所の「東棟」、魚食普及スタジオなどの「中央棟」、マグロなど鮮魚を水揚げする中心的施設の「南棟」からなり、一般向けの食堂や見学コースも完備しています。

- 食堂・直売所：平日7時～14時半、土日祝10時～15時
- 会議室・魚普及スタジオ：9時～21時※要予約
- ☎ 022-364-6151 (魚市場管理事務所)



塩竈市魚市場落成記念開放まつり

新しく生まれ変わった魚市場のお披露目も兼ねて開放祭を開催します。ブランドまぐろ「三陸塩竈ひがしもの」の鉄火丼をはじめ、多彩な塩竈の食を集めたイベントを開催！ミニ鉄道や水族館タッチプール、ペンギンもやります。

- 日時：10月29日(日)9時～15時
- 場所：塩竈市魚市場(塩竈市新浜町1-13-1)
- ☎ 022-364-2222 (塩竈市水産振興課)

今月のガイド



寒風沢農園
 かとう しんすけ
加藤 信助 さん

「震災後、食の大切さを再認識した」と話す加藤さん。震災当時は仙台市の電機メーカーに勤務していました。震災が起き「何か自分ができることはないか」と模索しているなか見つけたのが、寒風沢島での米づくり。寒風沢島は、父親の出身地で親しみもありました。

NPO法人浦戸アイランド倶楽部に雇用され、寒風沢島での米づくり。寒風沢島は、父親の出身地で親しみもありました。

「この島で農業をやっているという実績を残したいですね。そして次世代へつなげることができた」。

平成24年、26年にかけての米の栽培に携わります。食を支える根本である農業を続けていきたいと思いい、名取市の農業大学に通い、平成27年に「寒風沢農園」を開設。島育ちの野菜のブランド化を目指しています。